

浜の輪

J R 東労組横浜地本
OB 会ニュース

NO : 8 9

発行責任者 倉茂 忠
発行日 2026年 8月23日

第30回 JR 東労組横浜地本 OB 会定期総会開催！

7月28日（火）12時～「第30回定期総会」を茅ヶ崎市勤労市民会館6階 A 研修室に於いて開催しました。

小沢副会長の司会で始まり冒頭、亡き小田原支部前OB会長「遠藤晴之」さんの死を悼み黙とうを捧げました。続いて議長は大船支部OB会「木之下」さんを選出して以降の議事を進行して頂きました。



【倉茂会長挨拶（要旨）】

私たちを取り巻く内外の動向で、イラン、パレスチナ、レバノン、ウクライナ、ロシアなどの爆撃の映像が続き、多くの人命が犠牲になっている。こうした異常な光景を繰り返されることによって、むしろこれが普通にさせられる、何も感じられなくなってしまう、そんな危機感を強くしています。トランプ大統領を筆頭に覇権を強める一部の指導者による世界支配は、平和という私たちの求める当たり前さえも儚いものにさせてしまう状況下にあります。日本に於いても、そうした

動きとシンクロしながら自民党と維新連立政権による悪政がまかり通っています。皇室典範の改正、武器輸出の全面解禁、スパイ防止法の法制化、国旗損壊罪の創設、労働時間規制の緩和、そして憲法改悪へ等々、まきに行け行けドンドンの状態であります。11年前に成立した戦争法で戦争のできる国へ今まさに突き進んでいるということです。私たちは、これまで推し進めてきたあらゆる戦争もテロにも反対！の声を高らかに叫び、自分たちが出来る事は何なのかについて更に力をこめて取り組んで行きたいと考えています。具体的には各地区9条連の動きに積極的に取り組んで行くことを基本とし、現役で奮闘する仲間たちと共に進んでいくことと致します。トランプ関税や長期化する戦争による物価高、円安による生活苦もより一層過酷さを増してきています。自民維新連立政権による放漫財政は、より一層の増税として表れて私たちを苦しめることとなります。野党の体たらくが作り出した今日ではありますけれども、暴走を止めるために私たち高齢者、働く者が安心して暮らせる社会をつくる当たりの代表者をしっかりと応援していくことが重要です。今日おいで頂いている平野議員を始めとする真面目な議員をしっかりとたたかいの場へ送り出していきたいと考えています。来年は統一地方選挙であり、一人でも多くのJR東労組を応援する議員を政界に送り出す為に奮闘しようではありませんか。

今、職場では会社に忠実な社員のみを鏡とする労働現場となっています。乾いた雑巾を更に絞り上げる世界でもあります。異を唱える普通の社員には、パワハラと不当労働行為が横行することであり、抵抗とヒューマンイズムの精神で強大な権力に決して屈することなく最後までたたかい抜くという歴史の中に引き継いでいます。私たちOB会は、そうした歴史を現役で奮闘するたたく仲間たちと共有し、共に歩を進めていかななくてはなりません。私たちOB会に何が出来るのか。常に自問自答をする一年にして行きましょう。具体的には、春闘のたたかい。あらゆる現役の仲間たちと一体となった取り組みを一緒につくり出していくこととします。OB会の最大の課題は「寄る年波」です。地本OB会は、95歳の中村先輩を筆頭に429名で組織しています。皆さん年齢を重ねるごとに悲鳴をあげる身体の不調に抗して一日々を生きています。寄る年波には勝てません。しかし、上手に付き合い楽しく生きていくことは可能です。まずは健康第一。日々自分の身体と向き合い、早め早めのメンテナンスを怠ることなく過ごしていきましょう。その上でOB会運動に向き合っていこうではありませんか。引き続き秋・春のレクを盛大に創っていきます。多くの皆さんの笑顔でイベントを創っていきます。ご参加宜しくをお願いします。近況報告集は、159名の方から一言頂きました。ありがとうございました。全会員が一堂に会することが不可能な中、この一言集が組織の一体感をアップしています。皆さんとの「安否確認」を行う上で電話番号を教えて頂く取り組みを行う議論を幹事会でを行っています。今後の郵送物の中にその方法も入れさせて頂きます。最後にOB会員は、まずは健康第一、明るく楽しく元気よく、現役のたたかいをしっかり支える組織として進んで行くことを皆さんと議論を進めていくことをお誓い申し上げます。

【来賓の皆さま】

横浜地本 梶田執行委員長・木村執行副委員長・田島組織担当部長(OB会担当)

本部OB会 奥山会長・増田副会長・遠藤副会長 大宮地本OB会 福田会長

東京地本OB会 樋口副会長 平野みぎわ 神奈川県会議員

【頂いたメッセージ】

八王子地本OB会

【OB会員の発言】 (横浜支部)鈴木さん



昨年の継続課題であった、OB会費の値上げについて、昨年の総会で横浜支部OB会は、値上げ賛成の立場で鶴さんが発言しましたが、今回の予算(案)を見ると地本OB会費ぐらいいは値上げしても良いと思っていましたが、今年も値上げしないですが、結局どうなっているのでしょうか。

私も森びと活動で、毎月第4木曜日、大船の岡本2丁目の緑地で環境整備を行っています。体力に自信のある方は、是非ご参加下さい。横浜支部大会で、現職組合員の脱退理由が、「OB会費が高い。政治活動している」に対して、返答に困る。と聞き、私は今総会で地本OB会幹事に立候補して今後、こういう脱退者を出さないように頑張っていきます。

(大船支部)朝妻さん



大船支部OB会の一年の取組み報告をします。19日行動、10/28地本秋レクに多くの参加をしました。事務所開き・旗開き、地本委員会への参加。2/24支部春闘激励行動(カレーづくり)行いました。11/18大船支部OB会総会を行い、6/10には春レクで、旧島崎藤村邸、明治記念大磯邸

園内、旧大隈重信別邸など広い邸園を散策・見学して、相模園という店で懇親会を開きました。
大船支部OB会は、地本スローガンのように明るく楽しく元気よく、健康第一で活動していきます。



(川崎支部)大澤さん

一つだけ聞きたいのですが、旦那が死んだら配偶者が加入できるでしたよね。逆に生きているうちに奥さんが入りたい人はいないのですか？何故かと言うと年をとると歩行もちょっと歩き辛くなれば奥さんがいれば、一緒になんかしてもらえないのかなと思って、旦那が死亡したらを除いて配偶者の方で入りたい人がいれば入ってもらって婦人連合とか、女性の方が強いからそういうふうにしたらという案なんですけど考えてもらえたら嬉しいなと思います。



(小田原支部)石井さん

この1年、小田原支部OB会幹事会は、2カ月に1回程度、小田原支部会議室で、支部役員・地本OB会幹事からの情報や課題、今後の取組み等を受け、幹事会で議論を進め、その議論を通じて具体的な行動を行ってきました。昨年8月、国府津から鴨宮へ移転した小田原支部事務所の引っ越し

荷物の整理と2階会議室の清掃を行い、小さいことですが出来ることから行ってきました。

10/10、小田原城址公園で、2回流れたレクを晴天下で行いました。今後雨天時は、小田原支部会議室で行います。衆議院選挙は、地本推薦議員懇から1名しか国会に送ることができず、とても残念でした。3/3、2026春闘激励行動を支部に行い、夜は地本春闘総決起集会で現役組合員との連帯を深めることが出来ました。3/7支部OB会定期総会で、5/3憲法記念日に「平和憲法を世界に広げよう」と個人の署名を神奈川新聞に広告活動として参加しました。支部書記長から「現役組合員の課題について」を受け、互いの認識を深めました。小田原支部OB会は、JR東労組の活動を支えOB会員と家族の幸せを願い、活動を通じて健康で明るいOB会を築いていきます。



(川崎支部)橋倉さん

今は1,000人位で町そのものが消えて無くなりそうな足尾の町に住んでいます。森を造って昨年で20周年になりました。皆さんの多くのご協力を得て、マッチ棒のように細い苗木を植えて、今は私の太ももくらいの木に育っています。本当にやってきて良かったなあ実感しています。この

森を横浜地本OBの皆さんに是非見て頂きたいことが一番の思いです。9/17・18はお待ちしております。人間は植物がないと生きていけないと宮脇先生がよく言いました。人間1人が生きていくのに大人になった木、27本が酸素を作ってくれることを覚えてもらい、これからも緑を大事にする取組みをお願いします。森びともOB会もそうですが、人が少なくなると財政的に厳しくなることを是非考えて頂きたい。私も宇都宮支部OB会幹事として情報発送で苦労しています。



(小田原支部)増田さん

湘南地区9条連で代表をしています。今月の19日行動で聞いた話によると、国会前に午前中から右翼が集まっていて警察が、私らの集会が「できない」として、集会場所を国会図書館の方に変更させられ、高市政権の戦争

ができる国づくりは、私たちの集会への妨害を右翼にやらせている。19日行動も以前の2～3

千人の集まりから若い人が増えて2～3万人規模に拡大していて、今後は行ける所には行くようにしたいと思います。「東京湾を守る会」で、六ヶ所村の核施設・八戸を見に行く一泊行動を10/7・8に計画しています。もし行ける方は一緒に行きましょう。

【発言に対する関根事務局長答弁】

OB会費値上げの質問については、この一年間の取組みを幹事会で議論をした結果、繰越金も昨年同様に維持しているので値上げはせず、今後もOB会費を上手に活用していくこととします。

6名の皆さんの発言から、OB会・組合運動への真摯な取組みに敬意を表します。これからも皆さんの活動を学びながら共に地本OB会を強化していきましょう。

〈2026年度 役員体制〉

〈新役員〉

鈴木さん、高井さん

宜しくお願いします。

〈旧役員〉

杉永さん、古川さん

永い間、大変ご苦労様でした。

【木村執行副委員長の特別講演】



役 職	氏 名	年令	支 部
会 長	倉茂 忠	67	大 船
副会長	菅原 伸二	76	大 船
副会長	小沢 教久	63	大 船
事務局長	関根 章弘	69	川 崎
事務局次長	木村 正行	49	地 本
会計監査	岸田 信幸	71	川 崎
会計監査	茂川 郁夫	67	小田原
幹 事	浅野 講平	76	横 浜
幹 事	柏木 清人	74	小田原
幹 事	高階 弘	71	川 崎
幹 事	小笠原 敏雄	71	横 浜
幹 事	高橋 伸弘	68	大 船
幹 事	鈴木 正雄	67	横 浜
幹 事	滝沢 和男	65	小田原
幹 事	高井 隆一	63	小田原

木村執行副委員長ならびに業務部長を担っている木村です。どうぞ宜しくお願い致します。

まずもってこの間、OB会をけん引して頂きました杉永、古川さんの退任挨拶で触れられていました東労組に対する熱い情熱が、今後OB会の役員、参加されている皆さんに引き継がれて行く熱い総会になったと感じています。近況報告のハガキの取組みですが、奇しくも会社の現状に見切りをつけて辞めていった若い子たちの返信ハガキが158・159番として、東労組と縁が切れたわけではないという意味であり、現役との励まし・支援であると私は感じています。

私からは、現在JR東日本会社の職場はどうなっているのか。どういう働き方になっているのか。そこに働いている人たちは、今どう思っているのか。についてお話をします。

これまでの組織形態、働き方を抜本的に変える。支社をなくす。横浜支社は今月より無くなり、川崎事業本部・横浜事業本部・湘南伊豆事業本部に再編。各事業本部が一つの職場で、これま

での現業・非現業といった働き方の区別をなくし、第一線の職場と企画部門が融合した新しい組織となりました。これに踏まえ、事業本部内、どこの職場でも働ける「事業本部名」のネームプレートに変わり、同時に「職名」も日本語(駅長・主任等)から横文字(チーフ・サブマネージャー等)に変わり、「職名」の記載のないネームプレートになりました。職場名も〇〇駅は変わりませんが、大船運輸区は、大船ベースとか、中原電車区は、中原ベースとか職種が分かりづらい名称に変化させられて、急速な変化に現場も管理者も追いつけていない状況になっています。全社員が2役3役(職種)を担える体制に進もうとしています。相模線を筆頭にワンマン運転化が、南武線、横浜線、来年には京浜東北線が計画されており、システム開発が進めば進むほど次なる仕事の効率化がどんどんと技術革新の基に行われています。同時に決済に便利な Suica(スイカ)が使われているが、現金を持ち歩かない人が切符を買いに来て、システムトラブルでスイカ・クレジットカードが使用できず、苦情を受ける社員が非常に苦勞をしている現実があり、団体交渉で現在も解決に向けて進めています。人事・賃金制度の見直しで、65歳へ定年年齢の引き上げは実現したが、60歳以降は出向であり、65歳で定年を迎え、更に働く意欲のある人には「セカンドキャリアスタッフ制度」で5年間働ける。勤務制度の見直しで、日勤業務1日7:30を10分短縮7:20にして、1年間で特休が+3日になりましたが、車両系の方から「働く時間を短くされてもメンテナンス作業、車両の数は変わらない、直さなければならないことから「超勤」又は「休日出勤」せざるを得ない。乗務員職場では、交番行路・乗務員予備組を無くされた為、職場で待機することが無くなり日勤組がつくられイベント開発、儲かる仕事をつくり出す。無ければ駅に行き、指示を受け、そこで働く。よって当直が朝、ビクビクしている。突発休日が発生すると対応に苦勞する。どこの職場も人が足りず、年休取得で、休日出勤が発生する。賃金制度の見直しでは、「定期昇給」を【能力昇給】(1~6段階)に変更したが、職場では皆、自分がどの段階にいるのか?なんでこんな事になっているのか?疑心悪鬼になる人もいて、特に未加入者であるけど「一生懸命これだけやっているのに何でこれしか貰えないのか?」もでてきている。職場の中で様々な競争関係が新たに出てきている。

業務手当の新設では、乗務員の距離計算が無くなり、乗務距離に関係なく月25,000円となり1カ月乗させ放題の職場も発生している。住宅等手当の新設は、以前の都市手当で働いている箇所から住んでいる箇所を基準に変更した為、神奈川県住居者は一律45,000円、熱海(静岡県)住居者は一律10,000円となる格差が発生することになり、東京圏で働いていて地方に住み新幹線通勤をしている方も同様の不満が出てきている。何でこんな事になってしまったのだという事があります。今、職場の中では、自分の職場の形式名称を何と名乗るのが大変であると管理者間でやりあっています。言い方も外向き用と内向き用と違うややこしい面があり、本社からつくられ落とされたもので、四苦八苦して困っているのは現場だと思っています。そういうことも職場の意見を踏まえながらどうして行くべきかという事をやって行こうと考えています。職場で現れる一つひとつの事柄を精査しながらこれをどう解決していくのかを精力的に団体交渉を重ね、そこに共感してくれる未加入者の賛同を得ながら「こういう職場でいいのか?」「健全な会社にしていく為にどうあるべきか?」「何が出来るのか?」を問い、横浜地本は取組みを進めていき

ます。今後ともOB会の皆さんと相互に確かめ合いながら共にたたかって行くことを確認します。
以上で終わります。

【懇親会は大いに飲み・食べ・語り合いました】



【来賓の大宮地本福田OB 会長】



【来賓の東京地本樋口OB 副会長】

